

## こども地域生活支援会議

### ★ こども地域生活支援会議

#### 令和3年度の報告

行き渋りのある子への支援についてのテーマは、アンケートからどこの機関でも関心が高い課題でした。4回目の論議では、行き渋りのある子には、子どもや保護者に寄り添うことをどこの事業所でも意識的に取り組んでいました。しかし、子どもの行き渋りは、一人ひとり複合的な要因が絡んでいることから、子どもの背景を多面的に分析することが必要なことと、子ども自身の発言と心理状態が一致しないことなど、把握が難しいと話されました。さらに、医療とのつながりは子どもの理解がすすむため、連携することが良かったと意見が出ました。講演会で子どもの見方、特に心の健康を学べたことは、子どもの背景を考えていく材料となりました。

少年院職員の講話については、否定しないかわりや意図的な指導内容が学びとなりました。

新型コロナ禍の中、オンライン会議に初めて取り組みました。オンラインはコロナ禍でも開催できて良い方法でしたが、参加者からは論議を深めるため、対面での会議を望む声も上がりました。

回	開催日	実施内容概要	参加数
1	令和3年6月17日	オンライン (ZOOM) 開催 帯広少年院 川田社会福祉士、浅野法務官 「知的障害や発達障害のある児童の帯広少年院の矯正教育及び社会復帰支援について」	20 機関 42 人
2	令和3年9月16日	文書開催 「行き渋りのある子についてのアンケート」 アンケート結果を共有する	30 機関
3	令和3年12月3日	講演会 発達障害者支援道東地域センターきら星 丸山センター長 「成人期を見通した子どもの支援」	27 機関 33 人
4	令和4年3月9日	オンライン (ZOOM) 開催 「行き渋りのある子の理解と支援について」	12 機関 15 人

★ こども地域生活支援会議 相談支援グループ学習会

令和3年度の報告

強度行動障害のある子どもたちの支援について、相談支援事業所で把握している事例を出し合いました。子どもの場合、家での自傷他害が保護者の育児疲れにつながり、日中一時支援や短期入所などに頼らなければならない実態がありました。事業所でも刺激に弱く、暴れる、奇声を上げるなど行動調整が難しいことから、1対1で別行動になるために行動援護が利用されていると把握しました。行動援護の支援内容について具体的な内容がわかりづらいとの声があり、実施している事業所と情報交換していく予定でしたが、3回目は感染症対策のため中止になりました。

回	開催日	実施内容概要	参加数
1	令和3年5月12日	書面会議 帯広市における強度行動障害のある児童の実態と家族のニーズに関するアンケート	
2	令和3年12月1日	帯広市における強度行動障害のある児童の実態と家族のニーズに関するアンケートの結果について意見交換	6機関 8人
3	令和4年1月13日	相談支援事業所と行動援護の事業所と情報交換 →中止（新型コロナウイルス感染症対策のため）	

★ こども地域生活支援会議 児童発達支援グループ学習会

令和3年度の報告

事例検討では、事例提供事業所での児童の様子やアセスメント、支援の取り組みを発表してもらいました。行動停止のため次の活動につながらない児童に対して、本人の興味関心を利用しながら楽しみを持たせていくことが大事であること、スケジュールの伝え方にも工夫が必要であると意見が出ました。ゲーム依存の児童に対しては、ゲームそのものを悪とせず、ゲーム以外の楽しめる活動や、人と関わる活動を増やしていくこと、タイピングやソフトづくりなど同じPC関係で興味を広げるアプローチもあると意見が出ました。「私だったらこうする」とそれぞれ支援方策を検討しました。

回	開催日	実施内容概要	参加数
1	令和3年7月15日	事例検討 音楽セラピー樹音 村井理事長、加藤主任 行動が止まってしまう児童への支援	15機関 22人
2	令和3年11月12日	事例検討 児童デイサービスあびらぼ 千嶋管理者、 松原児童発達支援管理責任者 ゲーム依存がみられる児童への支援	18機関 25名